

株主・投資家の皆様へ

2021年5月25日

KDDI株式会社
代表取締役社長 高橋 誠

第37期定時株主総会 第2号議案に関する補足説明

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本日付でI C J プラットフォーム及び当社ホームページにて公開しました『第37期定時株主総会招集ご通知』に記載の第2号議案（取締役14名選任の件）において、重任で取締役候補者とした山口悟郎氏及び山本圭司氏は、それぞれ当社の株式を10%以上保有している主要株主である京セラ株式会社、トヨタ自動車株式会社の出身者となります。

当社は、2000年の発足時にNTTの対抗軸を作るべく両社と大同団結した経緯があります。また、2(1)に記載のとおり、両社は当社の企業理念や事業運営の範であるのみならず、今後の注力分野であるIoT事業における重要なパートナーでもあります。

このように戦略的なパートナーシップの関係にある両社の出身であり、経営者としての豊富で多彩な経験等を有する山口氏、山本氏を、当社の成長戦略推進にあたり必要な人材と考え、取締役候補としております。

ところで、当社取締役会は14名からなり、社内取締役9名、社外取締役5名で構成されています。社外取締役のうち3名を独立社外取締役とし（大八木成男氏、加野理代氏、後藤滋樹氏を候補者としています）、取締役会としての独立性を確保しております。また、当社は、監査監督機能を業務執行から分離、独立させ、取締役会を外からチェックするべく監査役会設置会社を選択しております。さらに、監査役の過半数※は、独立社外監査役です。

取締役会には、監査役5名※（うち独立社外役員が3名※）が参加し、取締役・監査役合わせて19名中、8名を社外役員、うち6名を独立役員として、議論の多様性と公平性を高めています（監査役5名※と社外取締役5名（うち独立3名）の計10名※の監視、チェックする役員が取締役会の議論に参加しています）。

まとめますと、当社の成長戦略推進に有用な取締役を主要株主から受け入れる一方、取締役会の独立性を確保した上で、なおも、取締役会とは分離した、独立役員が過半数※の監査役会が外から業務執行をチェックすることで、成長戦略推進と経営判断の公平性を両立しております。

以上の背景を踏まえ、山口氏、山本氏を取締役候補者として選定した理由について補足説明させていただきます。株主・投資家の皆様におかれましては、次頁以降の補足説明もご一読のうえ、第2号議案に対する賛否をご判断いただきますようお願い申し上げます。

敬具

※ 監査役会は、原則5名（うち独立社外役員3名）の構成となります。本年4月28日に独立社外役員1名が逝去により退任しており、『第37期定時株主総会招集ご通知』に記載の第3号議案（監査役1名選任の件）が原案通り承認されるまでは一時的に全4名（うち独立社外役員2名（半数以上））となっております。

記

1. 取締役会の審議、議決をフェアなものとするために

(1) 主要株主との利益相反を適切にコントロール

両取締役候補者の出身会社との利害関係が生じる案件については、特別利害関係人として議決に不参加としており、取締役会決議の公平性維持に万全を期しております。

3 (2) に記載のとおり、取引関係のチェックも実施しています。

(2) 当社の経営陣に率直な意見を言える

両取締役候補者は、その親族等が当社連結子会社の有力な職位についておらず、当社との関係において個人的に特別な利害関係を有しておりません。従って、当社の代表取締役社長らとの関係において公平・独立な立場を有し、自由な立場で議論に参加し、率直なご意見をいただけると考えております。

2. 両取締役候補者の当社経営への貢献

両取締役候補者の経歴と識見、当社の持続的成長に貢献いただけたと考える理由についてご説明いたします。

(1) 当社と京セラ株式会社、トヨタ自動車株式会社とのバックグラウンドや IoT 連携等のシナジー

前述のとおり、京セラ株式会社、トヨタ自動車株式会社とは、NTT の対抗軸を作るべく大同団結した経緯があります。また、当社の企業理念は京セラ株式会社のフィロソフィに示唆を受けており、当社の事業運営においては、トヨタ自動車株式会社の人間性尊重や現地現物の思想を範としているところです。

加えて、両社は今後の注力分野である IoT 事業における重要なパートナーでもあり、京セラ株式会社とは「LPWA (Low Power Wide Area)」対応機器等、トヨタ自動車株式会社とは街、家、人、クルマの全てがつながる未来社会の到来に向け、それぞれの中核事業である「移動」と「通信」の枠を超えて新しい取り組みを加速しております。

それぞれの会社で経営や執行の経験を積んだ山口氏、山本氏は、このようなバックグラウンドや IoT 事業での連携等を十分ご理解いただいており、当社の取締役会の議論等において、経営監督レベルにとどまらず、経営理念、事業運営方針レベルでも、適切なアドバイスをいただいております。

(2) 山口取締役候補

山口氏は、世界有数の電子部品・電子機器関連メーカーである京セラ株式会社の経営者として培われた豊富な企業経営経験及び優れた識見を有しております。また、技術的な知識のバックグラウンドに加え営業経験も豊富なことから、複眼的な分析、判断力を有しております。

同社は、当社携帯端末の他、生活に関連の深い各種機器を扱っていることに加え、以前よりグローバル化を進めていることから、山口氏には、「通信とライフデザインの融合」やグローバル事業の積極展開を目指す当社取締役会において有益なご意見をいただいております。加えて、今後の注力分野である IoT をはじめとした事業についても示唆をいただいております。

なお、昨年度の当社取締役会では、11回開催中 11回出席いただいております。

(3) 山本取締役候補

山本氏は、世界有数の自動車メーカーであるトヨタ自動車株式会社の役員として培われた豊富な企業経験を有しております。同社は生活に関連の深い自動車を扱っており、さらに日本を代表するグローバル企業でもあることから、山本氏には、「通信とライフデザインの融合」やグローバル事業の積極展開について有益なご意見をいただいております。

また、山本氏は、トヨタ自動車株式会社におけるIT開発や電子技術部門に関する優れた識見を有しております、今後の競争環境を見据えた生産性向上や技術戦略等についても有益なご意見をいただいております。

なお、昨年度の当社取締役会では、11回開催中11回出席いただいております。

3. 持続的な成長を目指すべく手続等を整備

1. で述べましたとおり、両取締役候補者は、それぞれの出身である主要株主との利益相反がある場合には取締役会の決議に参加せず、また、当社経営陣に対して公平・独立な立場に立ちます。

今般の株主総会招集ご通知P.22以降の「コーポレートガバナンス・コードの原則に係る参考情報」に記載されている内容によって、取締役会での議論がフェアで適切なものとなるよう担保しております。

当該参考情報のポイントは次のとおりです。

- (1) 指名諮問委員会の審議を経て選任したフェアでバランスのよい取締役会の構成（独立社外取締役3名を含む）
- (2) 報酬諮問委員会や関連当事者間の取引チェック等、公平公正を確保するシステム
- (3) 取締役の支援サポート体制の充実や、取締役会の実効性評価を通じたPDCAの実施により、持続的成長に向けた議論を深化、活性化

4. 結び

当社は、戦略的なパートナーシップの関係にある京セラ株式会社、トヨタ自動車株式会社から、多様で優れた識見・経験を有する社外取締役を取締役会に取り入れる一方、取締役会の独立性を確保するとともに、取締役会とは分離した監査役会が外から業務執行をチェックし、なおも、その他の手続等を整備してフェアでバランスの取れた議論を担保することで、企業価値の向上に取り組んでおります。そして、中長期的な成長を実現し、株主の皆様に配当の維持・向上等でお応えしていきたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、当該議案・候補者選任の趣旨、目的をご理解いただいた上で、議決権の行使をお願い申し上げます。

以上